

こどもの貧困問題に対処する自立支援員を配置し、子ども食堂等の居場所づくりを継続して進め、さらに学校や地域、企業などと連携して、社会全体にこども達への支援の輪が広がるよう、取り組んでまいります。

〔すべての人が健康で生き生きと暮らせるまちづくり〕

妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を行う子育て世代包括支援センターを設置します。

本市の健康課題である、肥満、多量飲酒と飲酒の習慣化、喫煙、生活習慣病の重症化の予防等に取り組み、平均寿命や健康寿命の延伸に努めてまいります。特に、働き盛り世代が職場や地域で自主的に健康づくりを行い、特定健診を受診して、生活習慣病や早世の予防につながるよう支援を行います。

また、健康づくりの一環として、「ひやみかちはウォーク」を引き続き開催していきます。

〔身近な地域で良質かつ適切な医療が受けられるまちづくり〕

休業補償のない骨髄提供者の入院等に対し、助成を行う「骨髄移植ドナー支援事業」を新たに開始します。

糖尿病等の重症化予防の取り組みに向け、CKD登録医をはじめとするかかりつけ医等と連携を図り、人工透析への移行を防止する取り組みを強化します。

また、小児医療や救急医療等、地域の中核病院である那覇市立病院の現在地での建て替えに着手します。

〔衛生的で快適に暮らし、健康危機にも強いまちづくり〕

食品、生活及び保健衛生の監視指導を行い、衛生管理の向上に努めていきます。

感染症等、市民の生命・健康を脅かす事態に対して、拡大防止、治療等に関する業務を円滑に行っていくきます。また、平常時から、健康危機管理対策の連絡会議等を開催し、関係団体と連携を図ってまいります。

次世代の未来を拓き、豊かな学びと文化が薫る誇りあるまち N A H A

〔子育てが楽しくなるまちづくり〕

一丁目一番地の政策として掲げた、待機児童対策では、保育所の創設等による保育定数の拡大を図った結果、待機児童は大幅に解消されてきております。

新たに、潜在保育士の認可保育園等への就職を促すため、就職応援祝い金を支給するほか、正規雇用の促進や賃金等の処遇改善を通じて、保育士確保を図り、待機児童解消につなげていきます。地域のコミュニティと児童の健全育成を支援する公園施設として「緑ヶ丘公園集会所（仮称）」を設置します。

また、放課後児童クラブについても施設の拡大を図るとともに、クラブへの補助を通して、児童支援員の賃金等の処遇改善を図ります。

子育て世帯の支援として、こども医療費助成事業では、病院の窓口で現金を支払う必要がない現物給付方式の10月導入を目指して準備を進めます。小学校新入学児童のいる、生活に困窮する世帯に対し、ランドセル等の学用品を購入するための準備金を、入学前に援助します。

成績優秀で意欲があるにも関わらず、経済的理由で県内大学等への進学が困難な学生に対し、進学及び修学を支援するため、入学支度金及び授業料を全額給付する、本市独自の給付型奨学金を創設いたします。

こどもの貧困対策に活用する「こどものみらい応援プロジェクト推進基金」に、市民への幅広い協力を呼びかけるとともに、本市としても1億円を積み立てます。

〔自らの力で未来を拓く子ども達を応援するまちづくり〕

本市の児童生徒の学力は、小中一貫教育を柱とした授業改善等の取り組みにより向上が図られています。今後は、地域等との連携をさらに進め、人間性豊かな人材育成を目指します。

全中学校区に子ども寄添支援員を派遣し、貧困家庭の児童生徒への細やかな支援を行います。また、不登校の児童生徒には、学校や家庭と連携し、アウトリーチを行うなど、こども達の状況に応じた支援に取り組みます。

学校施設については、要望が大きいトイレの洋式化や遊具の改修を着実に進めるとともに、引き続き校舎の耐震化や改築事業を行います。

〔生涯学習を推進し、地域の教育力を向上させるまちづくり〕

真和志南地区に、人材の育成と地域コミュニティの拠点施設として、「活き活き人材育成支援施設（仮称）」の整備を継続して行います。小学校等が、地域の人々や団体等をつなぐ場、子育て・健康・福祉サービスを行う等のコミュニティの拠点の場となるよう、学校のオープン化を進めます。

〔郷土の歴史、伝統文化・芸能にふれあい、新たな文化を創造するまちづくり〕

伝統文化を継承し、市民の芸術活動の拠点となる新文化芸術発信拠点施設の建設工事に着手し、3年後の開館に向け事業を着実に推進していきます。伝統文化の保存・継承・発展と、市民の文化芸術・芸能活動の支援にあたり指針となる、文化振興基本計画の策定に向けた基礎調査を行います。

重要な伝統文化の礎である「しまくとうば」の保存・継承・発展を図るため、「うちなーぐち講座・成果公演」を実施します。

ヒト・モノ・コトが集い、育ち、ひろがる万国津梁のまち N A H A

〔ビジネス・リゾートと歴史・文化が融合する観光まちづくり〕

那覇港へのクルーズ船寄港回数の増加や新規航空路線の就航に伴い、今後も外国人観光客の増加が見込まれることから、その体制整備を目指します。空港や港などがある本市独自の特性に則した実態調査を行い、災害時の観光客への対応から、災害後の観光産業の回復までの観光危機管理計画（仮）を策定します。

〔様々な産業が集い・育ち・ひろがるまちづくり〕

独自の目線・切り口で市内経済産業の振興をアピールすることに特化した「なはけいざいMAGAZINE」の発刊を継続します。中小企業実態調査の結果を踏まえ、本市の「課題」と「効果的な施策」の分析を行い、支援施策を検討します。

計します。

企業へ投資が促進されるよう、投資家と企業のマッチング環境整備を行います。また、新商品や新サービス開発を支援し、さらなる経済発展及び雇用創出を図ります。

情報通信関連産業と他産業の融合による高度化を積極的に推進する「沖縄ITイノベーション戦略センター」の設立に参画します。

『魅力的な「うみ業」のまち』の実現に向けた水産業振興発展のため、泊を拠点とする漁業関係団体等が行う冷凍冷蔵施設の建設や、漁業関連施設の機能強化を積極的に支援します。

〔産業を支える市民とその労働環境を整えるまちづくり〕

「なはしスタートアップサロン（仮称）」を活用し、市民の創業や就業に関する相談、セミナー開催やビジネスマッチング等の支援を行ってまいります。「働き方改革」を踏まえて、ワークライフバランスの推進や職場環境改善策について、広く周知していきます。

〔中心市街地を活かしたまちづくり〕

第一牧志公設市場の賑わいを継続していくために、にぎわい広場に仮設市場を建設するとともに、現在地での新たな市場建設に向けた実施設計を行います。

また、商業の活性化を図るため、従来の中心市街地のみならず、市域全体の商店街や通り会等についても、創意工夫した積極的な取り組みに対し、頑張るマチグワー等支援基金の活用を通して、支援していきます。

自然環境と都市機能が調和した住みつけたまち N A H A

〔省エネを実践し、資源が循環するまちづくり〕

地球温暖化対策の一環として、住宅用省エネ設備に対する費用の一部助成を継続して実施します。好調な経済活動に伴い増加している事業系ごみの分別、資源化など適正処理の指導を継続します。また、家庭から出された紙や缶類等の資源化物の持ち去り防止を徹底し、地域等と協働して、拠点回収を進めます。

〔自然環境が育まれた那覇らしい亜熱帯庭園都市のまちづくり〕

市民に自然環境保全の意識を高めてもらうよう、環境啓発事業を推進していきます。

また、公園遊具の改修を行うとともに、公園ボランティア等、市民の主体的な活動や、民間活力を活かした公園の効果的な整備・再生・活用を進めます。

街路樹の緑化や美化についても、市民や企業ボランティアなどの美化活動との連携を図りながら、観光都市にふさわしい景観づくりに取り組みます。

伝統的な素材である赤瓦屋根や石積みなどの景観をもつ首里地区や壺屋地区において、継続して助成を行い、歴史・文化に彩られた景観づくりを広げていきます。

〔暮らして良し歩いて楽しい快適なまちづくり〕

のうれんプラザを核とする、農産市場地区の再開発事業について、分譲住宅の整備を促進するとともに、道路や市営住宅、保育所の整備を推進します。

平成15年度に事業着手したモノレール旭橋駅周辺地区の再開発事業は、8月に完成を予定しており、新たなバスターミナルとモノレール駅の交通結節点として、機能強化を図ります。

沖縄都市モノレール延長事業については、次年度の開業を目指し、石嶺駅舎及び周辺の整備に取り組みます。

密集住宅市街地の再生に向けた基礎調査に引き続き取り組み、中心市街地へのまちなか居住などを推進していきます。

石嶺、宇栄原、大名の各市営住宅の建替工事を継続するとともに、真地市営住宅の建替に向けた基本設計を実施します。

動物愛護管理思想の普及啓発を図り、飼い主のいない猫への不妊去勢手術の実施をとおし、生活環境悪化の低減に努めます。

〔災害に強い都市基盤の整備で安全安心のまちづくり〕

橋梁やモノレールインフラ等の長寿命化修繕計画に基づき、効率的な予防対策を行います。交通渋滞の緩和や歩行空間の確保等、安全安心で快適な道路整備を行うために、一銀線を含む都市計画道路7路線の事業を進めていきます。

あじまあの創出

結びに

那覇大綱挽きの舞台となる久茂地交差点。世代を超え、様々な人々が力の限り大綱を挽き合う光景は、圧巻そのものであり、見る人を魅了してやみません。

交差点は、しまくとうばでは「あじまあ」と言います。そこに引き寄せられるかのように人々が集い、一体となり、大きな力を生み出す様子を見るに付け、私は、「あじまあ」とは、ヒトとヒトが出会い、ヒトとモノが集まり、そして、新しいコトが生みだされる場所ではないかと感じています。

市民の持つ力が輝くために市政はどのような役割を果たすべきでしょうか。私は、その役割は、市民の持つ力、その可能性に想いを馳せ、まちづくりのプロセスのひとつひとつに「あじまあ」を創りだし、新しいコトが生み出される準備をしていく、これに尽きるのではないかと思います。

出来上がった「あじまあ」で市民が出会い、集まり、それぞれの次の未来へ踏み出していく。そのようなイメージを胸に刻み、引き続き、市民の皆様から寄せられる期待に応えるべく、市政運営に臨む決意であります。

市民の皆様、並びに議員各位のご理解、ご協力をよろしくお願い申し上げ、私の施政方針の結びの言葉といたします。

いっぺー にふえーでーびる。

那覇市長 城間 幹子